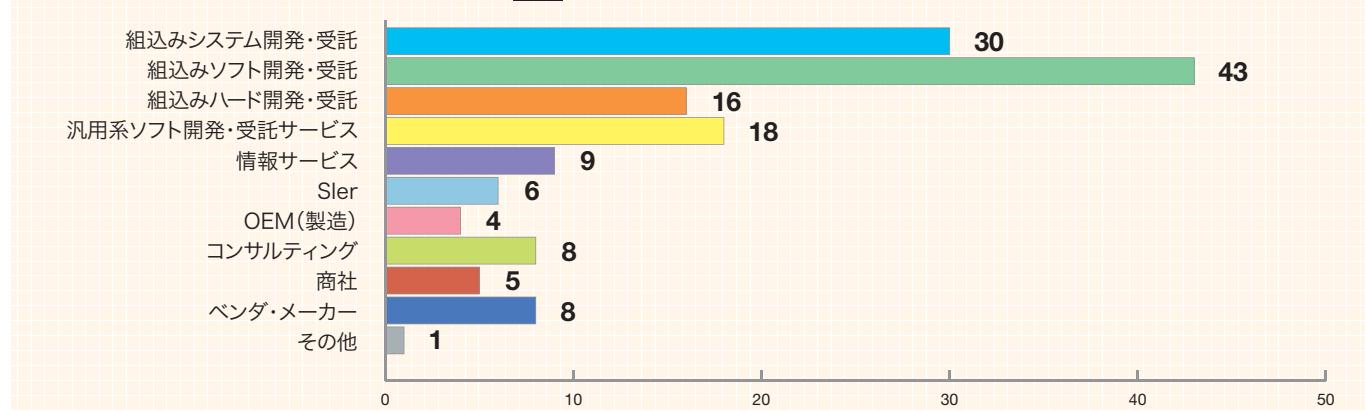


業界2020年の見通し

会員企業 景気動向アンケートより

オリンピックイヤーとなる2020年が幕を開けた。5Gの商用サービスが開始され、ICT環境は様変わりする。「2025年の崖」を視野に入れたデジタルトランスフォーメーションの動きもさらに活性化していくだろう。時代が「令和」に変わり日本が大きな転機を迎えるなか、新たなビジネスへの「機会」「期待」を抱く一方で、米中貿易摩擦の影響などによる半導体市場の低迷など「不安」「リスク」も伴う。そうしたなか、会員各社はどう飛躍に向かおうとするのか。「景気動向アンケート調査」から企業の現状、業界予測を展望する。

[表1] 回答企業の主たる事業(複数回答)



Q. 2019年の貴社の業績はいかがでしたか?

「良かった」「普通」がそれぞれ5%、7%の減少、前回同数の「非常に良かった」と合わせ80%となり、前回・前々回と続いた90%超から大きく減少している。「悪かった」が『2016年の業績*』以来(11%)となる二桁を記した。

(*2017年1月発行 vol.61掲載)

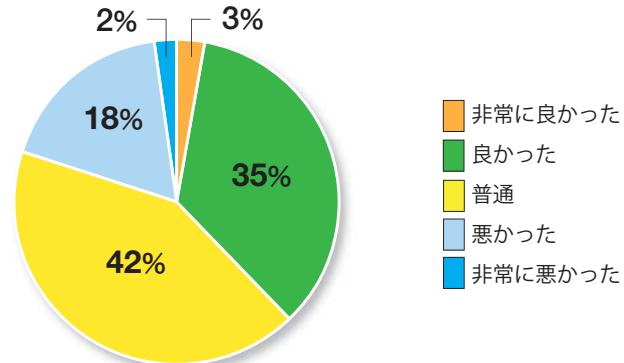


図1 2019年の貴社の業績はいかがでしたか?

Q. 前年と比較して2019年の業績は?

前回ほぼ半数(48%)だった「非常に良かった」「良かった」の合計が40%に減少し、「普通」も7%減の35%となつた。逆に「悪かった」とする回答が20%(+12%)に、「非常に悪かった」が5%(+3%)に増加した。

ここでもバランス的には『2016年の業績』に酷似した結果となっている。

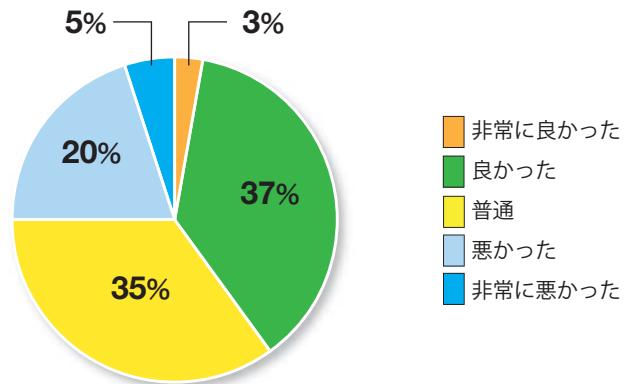


図2 前年と比較して2019年の業績は?

Q. 2019年業績の伸び率は?

「30%以上」と好業績を示す回答が5%あるものの「20～10%」以上の二桁成長は合計で17%、前回の30%から半数近くまで減少した。マイナスとする回答は『2015年の業績*』以降15%前後で推移してきたが、今回は29%と大きく増加する結果となった。

(*2016年1月発行 vol.53掲載)

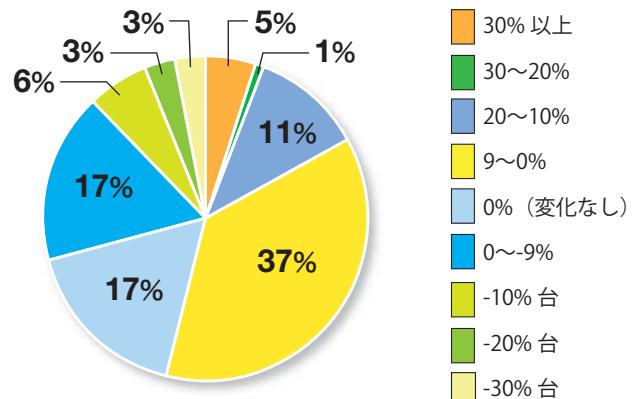


図3 2019年業績の伸び率は?

Q. 業績に貢献した部門は?

業績に貢献、または補完した部門を問う質問では、バランス的には3年続けて変化はなかったが、「営業」が6%減少した。また、「その他」に自社製品、派遣、営業外収益といった回答があがつた。

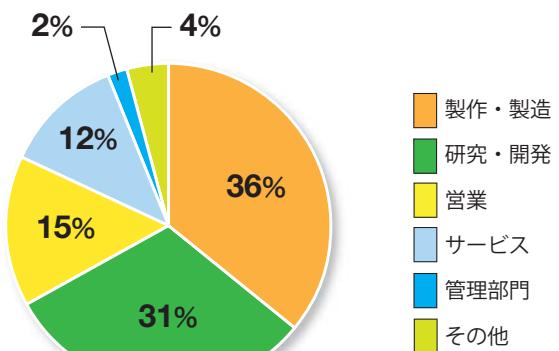


図4 業績に貢献した部門は?

Q. 今後補強したい部門は?

補強部門に対する回答も同様に3年続けて変化は見られないが、微増した「サービス」と微減となった「製作・製造」の差がわずか2%に縮まっている。

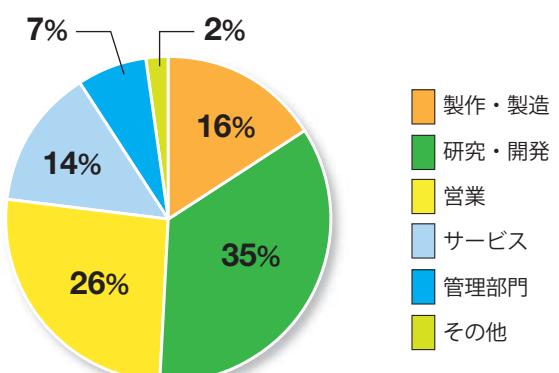


図5 今後補強したい部門は?

Q. 円安や株価、また国際情勢による影響は?

影響なしとする回答が変わらず多いものの、「他国(地域)で影響を受けた」とする回答が前回2%から大きく增加了。中国の半導体業績不振、米中貿易摩擦など特に中国による影響が大きかったようだ。

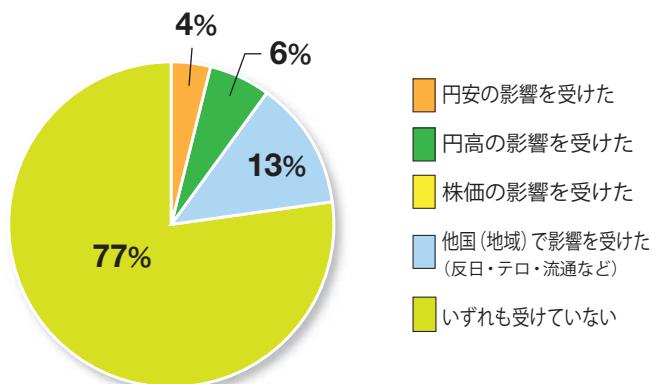


図6 円安や株価、国際情勢による影響を直接受けましたか?

Q. 技術者の雇用状況は?

年々増加する傾向にある「適正」とする回答が前回から倍以上(+15%)の25%に大きく増加。その分「不足」が減少、「不足(積極的に採用していく)」は回答が集中しながらも前回から10%マイナスとなる大きな減少を記した。

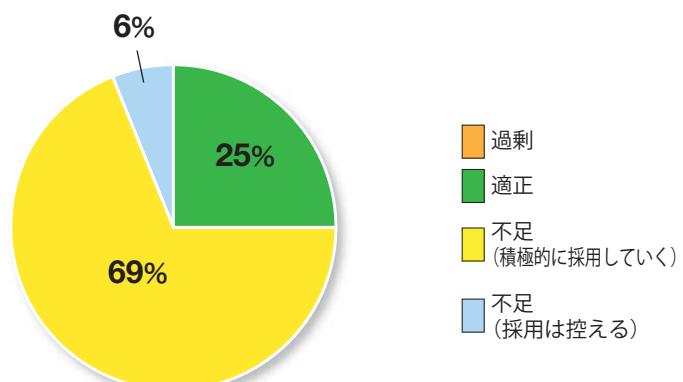


図7 技術者の雇用状況は?

Q. 2020年組込みシステム関係の景況は?

前回に続けて「非常に良い」「非常に悪い」とする回答はゼロとなった。2年連続で50%を超えていた「良い」は前回から23%の大幅なマイナスとなる32%に減少、逆に「悪い」が+17%増え22%にまで達した。

「良い」理由には、5G関連への期待、車載系開発やロボット分野の堅調さ、デジタルニューディールや大阪万博などの好影響への期待などがあがった。また「悪い」理由としては、国内メーカーの迷走や業績不振、米中貿易摩擦の影響、全体的な景気後退感といった意見が見られた。

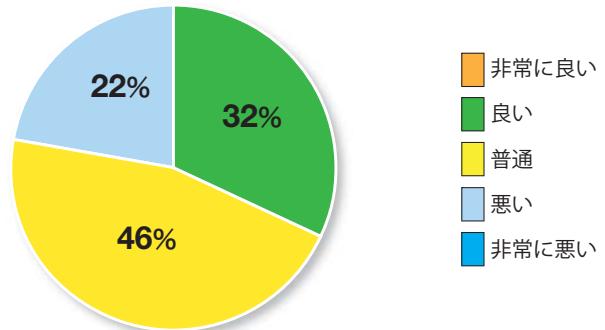


図8 2020年組込みシステム関係の景況は?

Q. 2020年の貴社の業績は?

自社の業績でも、2年続けて50%超だった「良い」が28%に大きく減少し、+10%増の「普通」が半数を超えた。回答があつてもせいぜい一桁だった「悪い」とする回答が+12%増となり、一気に15%にまで伸びる結果となった。

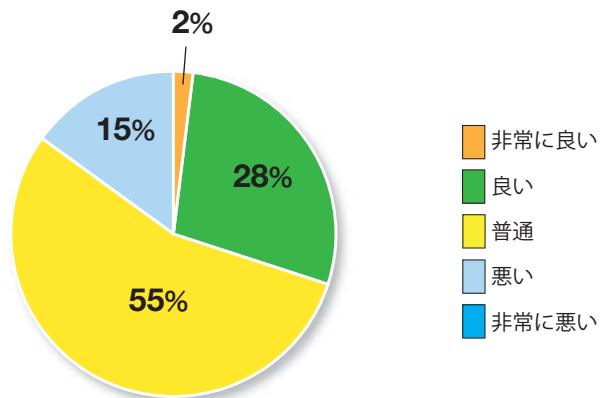
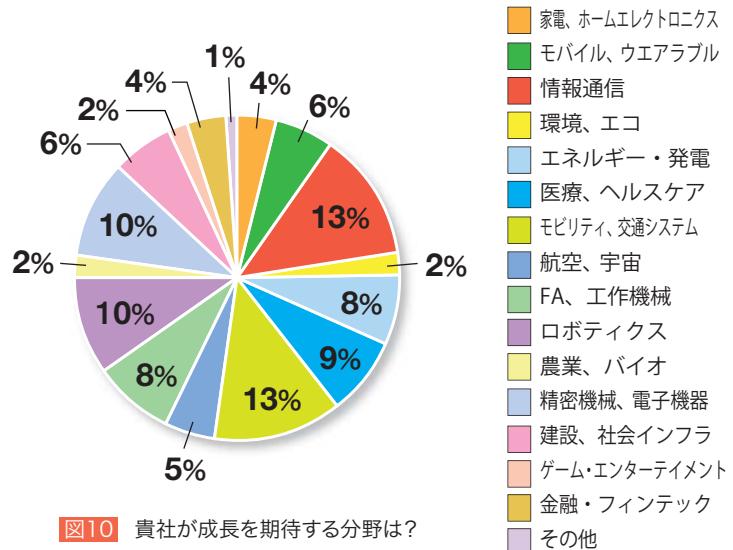


図9 2020年の貴社の業績は?

Q. 貴社が成長を期待する分野は?

二桁回答の「情報通信」「モビリティ、交通システム」「ロボティクス」「精密機械、電子機器」ほか、数値・順位とも前回とほぼ同様となり、今年も引き続き期待値の高い分野であることがうかがえる。新たに選択項目として加わった「ゲーム・エンターテイメント」「金融・フィンテック」にも回答があり、注目されていく分野となりそうだ。



Q. 2020年貴社にとってのキーワードは?

多くの企業が成長を期待する年になりそうだが、自社にとってのキーワードは何か。キーテクノロジーや応用分野関連、自社の環境や意識改善関連に分けて取り上げてみた。

■キーテクノロジー、応用分野

- DX(デジタルトランスフォーメーション)
- IoTデバイス
- エッジAI
- オープンイノベーション
- フィンテック
- MaaS
- 画像処理
- 組込みセキュリティ
- GNSS
- 協働ロボット
- 医療
- 公共
- 食品(HACCP)

■自社の環境改善・意識改善

- 持続的取り組み
- カスタマーファースト
- グローバル展開
- ダイバーシティ
- コスパの最大化
- 競争力向上
- 価値創造
- 事業基盤の強化
- 次世代
- 新技術開発、新規事業
- 新分野への展開
- 自社製品開発、販売
- 人材開発、人材育成、
- 積極性と行動力
- 変化に対する備え

2019年の業績、2020年の見通しとも厳しいアンケート結果となった。

現在の中国は生産拠点であるとともに、巨大消費地としての性格を強くしているが、米中貿易摩擦によって大きく揺らいだ。2019年末に米中貿易協議の第1段階の合意がなされたものの、最終的な落とし所が見えないことが景況感を悪くしている。CASEの影響を受けた自動車産業の世界規模での減速感も影を落とす。

しかし将来に向けた光も差している。IoTやエッジコンピューティング、エッジAIはいよいよ本格普及期を迎えようとしている。2020年には5G(あるいはローカル5G)が加わる。いずれも組込み業界が得意とする、あるいは得意としなければならない領域である。今回のアンケートでも2020年のキーワードとして多く挙がっており、期待が高まっている。IoT+エッジ+AI+5Gに関する技術力と提案力を高め、2020年を今後の飛躍に向けた第一歩にしたいところだ。